浪江のこころ通信

・最終号・

平成23年３月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年３月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化する中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

〝浪江のこころプロジェクト〟は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信（※1）」を通してお届けし、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム（※2）が中心となり、全国各地のＮＰＯ、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のこころ通信」を編集・発行しています。

※１ 浪江のこころ通信は、町民の皆さんがお話しした「こころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ってまとめた原稿をほぼ原文のままで掲載しています。

※２ 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、ＮＰＯ、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

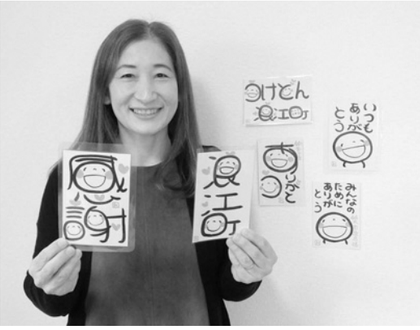
「浪江のこころ通信／最終号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒979－1592
浪江町大字幾世橋字六反田7番地2
「浪江のこころ通信」宛て
FAX 0240(34)4593

只野　玲子さん（請戸）

取材者：一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム　村田・吉田
取材日：12月10日

お世話になった皆さんに「笑い文字」で感謝の想いを伝えたい



▲笑い文字を手に

宮城県名取市にお住まいの只野玲子さん。

現役の保育士として仕事をしながら、かわいい「笑い文字」の普及活動を行っています。渡した相手が自然に笑顔になり、ほっこりと幸せな気持ちになれる「笑い文字」。そこに込められたふるさとの皆さんへの想いを伺ってきました。

◆保育園で被災
～翌日には町外へ

私は新潟県の出身で、結婚し請戸に嫁ぎ、子育てをしながら浪江町臨時職員としてコスモス保育園、請戸小学校児童クラブや大堀幼稚園にも勤務していました。

震災時は、コスモス保育園に勤務し、地震が来たのは、子供たちをお昼寝から起こそうとした時でした。震度６強で立っていられない程の揺れでしたが、子供たちの安全確保に努めました。揺れが収まって、靴を履き、外に避難しました。子供たちの素早い動きに感動でした。子供たちのお迎えも仕事や道路の被害もあって夜遅くまでかかりましたが、無事全員引き渡すことが出来て安心しました。

請戸の消防団の分団長をしていた夫が、見回りや津波からの避難誘導の中、津波に追いかけられながらも母と愛犬を連れて保育園に避難出来ました。娘と息子にも連絡が取れ、家は津波の被害を受けましたがみんなの無事を確認でき、安堵しました。夫も私も一晩、避難所の手伝いをしました。翌朝炊き出しの手伝いをしていると、原発がダメなのですぐに避難だと伝えられ、車で出発。外には防護服を着た警察官の姿が見られ、何がなんだか分からずの避難でした。夫は、津島の避難所にとどまり支援活動し、私たちは夫の妹がいる福島市まで行きました。

◆新潟から宮城へ

原発の水素爆発により、私の実家がある新潟県新発田市に避難し、実家に１か月お世話になりました。その後、避難所（ホテル）みなし仮設（アパート）に移り３年間過ごしました。

夫は浪江町の泉田組に勤務していたので、すぐに捜索とがれきの撤去のため単身で仕事に行き、週末は新潟に帰って来る生活でした。私は地元の保育園に勤めることができ、保育士を続けていました。娘は短大２年生になる時で、いろいろな方のご支援を頂き無事卒業し、保育士として社会に出ることができました。息子は県立双葉高校３年生になる時で、４月に面接を経て、県立新発田高校に編入することができました。素晴らしい仲間に巡り会え、無事卒業し、大学へ。そして、公務員として震災の経験を活かし、お役に立てるよう頑張っています。子供たちのそれぞれの進路にご尽力頂いた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、家族の集まれる家を探し、２０１４年宮城県名取市に家を建て引っ越しました。近所に浪江町から来た方もいて、行き来させて頂いています。

◆宮城県名取市での暮らし
～笑い文字の活動

現在、名取市の公立保育所で会計年度任用職員として勤務しています。空いた時間に「笑い文字」の活動をしています。笑い文字は、満面の笑顔の筆文字。「感謝と喜びの循環する世界を作る」「書いて半分、渡して完成」。受け取った方が癒されたり元気になったり、感謝を伝えたり応援したり出来ることに共感し、３年前に講師の資格を取りました。公民館や児童センター、社員研修などで教えています。コロナ禍なのでオンラインでも開講しています。昨年テレビや福島の新聞にも取り上げてもらいました。

請戸でお世話になった、名取市閑上で事業を再開された鈴栄さんや道の駅なみえで再開された鈴木酒造店さんには笑い文字の発信にもご協力頂いています。大堀幼稚園時代にお世話になった大堀相馬焼の錨屋窯さんや松永窯さん。皆さん、渡した笑い文字を喜んでくださり、お店に飾ってくれています。請戸のお墓参りに帰った際は、浪江町役場や道の駅なみえさんに立ち寄り笑い文字を渡しています。

笑い文字が家庭に一枚あることで笑顔になり、活力になって欲しい願いも込めて、これからも、皆さまへ感謝の想いを伝えていきたいです。たくさんのご縁に感謝です。